

第1回地元密着型地域活性化シンポジウムの実施報告

苫小牧高専では、平成17年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）「学生参画型産学連携推進プログラムー“技術者の卵”の地産地消を目指してー」の取り組みを、地元企業や市民に広報するために、平成18年2月3日にグランドホテルニュー王子にて「地元密着型地域活性化シンポジウム」を開催しました。地元企業や他高専から約70名の参加者がありました。

シンポジウムでは、北海道経済産業局産学連携推進室長の赤繁博規氏と(株)山口技研コンサルタント常務取締役の山口武宏氏を講師に迎えた基調講演と「プレ研究を活用した地域の活性化」のテーマに基づいたパネルディスカッションを行いました。

赤繁氏は『北海道経済産業局における産学官連携の取り組み』と題して、経済産業省の産学官連携支援及び人材育成や知的財産権の活用について講演されました。また、山口氏は『企業と学生、コラボレートの実現』と題して、平成17年度に実施したプレ研究の成果を講演されました。

パネルディスカッションでは、基調講演の講師に加え、西川辰美氏（(株)電気工事西川組取締役社長）、平間利昌氏（苫小牧市テクノセンター館長）、高田龍一氏（松江工業高等専門学校地域共同テクノセンター長）、小島洋一郎氏（苫小牧工業高等専門学校 地域共同研究センター副センター長）をパネリストとして迎え、苫小牧高専の現代GPの成果と今後に向けた改善点等について議論しました。その結果、インターンシップを地元企業の抱える課題の解決に活用するというプレ研究は、企業にとっても学生にとってもいろいろなメリットがあり評価できることが確認されました。課題としては、企業・学校・学生間でのコミュニケーションを十分に取ること、学校側が企業のスタイルにフレキシブルに対応することが必要ではないかとの意見が挙げられました。また、学校側からも研究テーマを提案することも必要ではないかとの意見もありました。さらに、プレ研究に期間は3週間と設定されているが、もう少し長い期間をかけて行う必要があるのではないかと指摘もありました。

この議論を通して、苫小牧高専が提案する現代GPの取り組み内容の広報・啓蒙が図れたことに加え、平成18年度への取り組みに向けて課題が明確化され、有意義な議論が展開されたと考えています。

